

チーム横田、歴史的日米宇宙パートナーシップに従事 宇宙システム軍団を支援 *Team Yokota aids Space Systems Command in historic US-JP space partnership*

January 18, 2023

By Tech Sgt. Taylor A. Workman
374th Airlift Wing Public Affairs

1月17日、横田基地の第374使命支援群と航空機動軍団傘下の第730航空機動中隊は、米宇宙軍宇宙システム軍団(SSC)を支援するため、日本の準天頂衛星システム(QZSS)に搭載するペイロード2基のうちの1基目を送り届けた。

今回の搬送は、両同盟国の宇宙政策に沿って宇宙分野におけるパートナーシップを強化し、宇宙安全保障上の共通の利益を認識する、日米両政府のコミットメントを強固にする歴史的な一歩となる。

米宇宙軍SSCのQZSSペイロード・プログラム監督官ブライアン・フレドリックソン中佐は、「第374空輸航空団と航空機動軍団の支援は、日本との連携による米国の統合抑止の取り組みに欠かせなかった」と述べ、「宇宙飛行の準備が整った今回の最初のペイロードの引き渡しは、そのミッションの重要なマイルストーンだ」と言及した。

第374空輸航空団の契約担当は、QZSSミッションの重要な国内安全保障支援契約を確保し、ロジスティクス担当はQZSSに搭載するパレット8つのペイロード機器の物理的な輸送を担った。各部隊の連携によってペイロードを受け取り、それを横田基地から日本のパートナー施設までの輸送を無事完了した。

第374使命支援群副司令官ジェニファー・マラテスト中佐は、「今回のプロジェクトの真のMVPIは、契約中隊と装備即応中隊だ」と述べ、「同群が、宇宙空間の認識を高める歴史的な二国間協力の一端を担えることを光栄に思う」とコメントした。

そしてマラテスト中佐は、数カ月にも渡る計画と準備の集大成が成功裏に終わったと振り返った。

QZSS搭載ペイロードのロジスティクス・セキュリティ主任ジョー・サンティアゴ中尉は、「やりがいのある重要なミッションだ」と話し、加えてマサチューセッツ州のハンスコム空軍基地第66航空基地航空団から横田基地第374空輸航空団へ安全に輸送する宇宙軍と航空機動軍団との連携なくして、この搬送は不可能だったと振り返り、「QZSS搭載ペイロードプロジェクトの成功には、横田基地やハンスコム基地を含む、米国側の多くのミッション・パートナーの貢献を必要とした」と言及した。

今回のペイロードの輸送は、2年前に日本の宇宙開発戦略推進事務局(NSPS)と米宇宙軍との間で調印された歴史的な覚書に基づいて行われた。

ペイロードが日本に到着すると、SSCは2基のQZSSのホスト衛星への搭載と打上げ準備のための次の段階を進め、宇宙分野における日米の一体化を実現する。

